

N O R C ニ ュ ー ス

社団法人 日本外洋帆走協会

春の訪れが海に、山に、都会のビルの谷間に、そして身近かな空間にも歩み寄つて来ました折、会員各位にはますますお元気に愛艇の上架、ペインティング、その他の整備に、レース開幕又はご計画のクルージング等に期待の胸をフルセールしておられることゝ存じます。

本協会も昭和39年(1964年)2月1日に運輸大臣認可の公益法人として発足いたしてから満4ケ年の歳月を過し、去る2月18日には才5回の通常総会を開催し、役員の改選を始め諸々の議案の審議を終りましたので愈々昭和43年度(1968年)の事業開始となりましたことは大慶の至りに存じます。

新造艇の加入も相次いでおり、来る4月5日開催の「香港〜マニラレース(600哩)」には関東支部所属の「MISS SUNBIRD」(43呎艇)と内海支部所属の「MINERVA III」(36呎艇)の2艇が参加するためそれぞれ勇躍回航の途につき、又小笠原諸島の返還を機会に同島への「外洋レース」の開催意慾も嵩まつており、多車多彩の観をもたらしております。しかしある半面一般の「レジャー」と同一視されての報道もまま見うけられ啓蒙の要を感じますこととて、各位には常に自艇の安全と海事諸法規を遵守されて当協会の趣旨の高揚と啓発にご協力願います。

I 本 部

◇ 第 1 1 回 理 事 会 開 催

才5回通常総会開催に伴い2月18日(日)12.00より14.30まで松屋サロンにて、久保田、野本、野間、丹羽、大儀見各理事欠席(委任状提出)されましたが、定款による理事会を開催し、下記の諸議案について活潑な意見を交換し、特に前回理事会にて討議された年会費統一と、各支部の本部分担金の統一等について一応の成果をもたらし、全議案の審議を終了しました。

審議議題

㊦ 1 号議案 昭和 4 2 年度事業報告及び 4 3 年度事業計画

㊦ 2 号議案 昭和 4 2 年度収支決算及び 4 3 年度収支予算

㊦ 3 号議案 資産の変更（登記事項の変更）

㊦ 4 号議案 役員改選の件

㊦ 5 号議案 新入会員承認の件及びその他

(1) 新入会員承認の件（定款㊦ 7 条による）（4 2.1 0.1 ～ 4 3.2.1 0）

そ の 他

(1) 準会員取扱いの変更

(2) 賛助会員は一年期間として推選することとする。

(3) 会員現在数（昭和 4 3.2.1 0 現在）

◇ 第 5 回 通 常 総 会 開 催

本ニュースの冒頭にも記しましたように当協会の発展を表象する㊦ 5 回の通常総会は 2 月 1 8 日 1 5 : 3 0 より松屋サロンにて定款による定足数を上廻る出席者を迎へて各議案の説明と審議承認を得て盛会裡に終了しました。

本年度は役員の改選期に当つており、新任、辞任の方々のご苦勞に感謝します。なお、役職にも異動あり、創立以来、誠心誠意本協会の今日の盛運を培れた飯島専務理事には 1 名増員の常務理事に就任され、則武常務理事は 3 月末日をもつて 2 期在任中の数々の成果を置土産に辞任されることになりました。専務理事には大儀見理事が就任されその精通せる手腕をもつて本協会の発展に拍車をかけられることになりました。

なお、防衛庁海上幕僚監部総務課広報室（原画フィルム）と会員平野美喜夫氏（映写機）のご厚意とご協力にて映写の手筈でしたが当日になり不備を発見し映写不能をきたしました不手際の点を改めてお詫びします。

審議議案

㊦ 1 号議案 昭和 4 2 年度事業報告及び 4 3 年度事業計画

㊦ 2 号議案 昭和 4 2 年度収支決算及び 4 3 年度収支予算

才3号議案 資産の変更(登記事項の変更)

才4号議案 役員改選の件

才5号議案 その他

(1) 入会金及び会費等の統一する案

(2) 定款才10条才2項により著しく会費の納入を怠つた会員を除名する

(3) 賛助会員の推選について

(4) その他

◇1968' レース規則, 安全規則の改正についての要点

I レース規則の改正について

NORCレース規則は1967年に関東支部だけで適用してテストされてきたのですが、本年から「1968年外洋レース規則」として、全国各支部共通のレースルールとして採用されることになりました。

一年間にわたる実用の上につて若干の改正が今回行なわれましたが、その改正点を簡単に解説してみたいと思います。

1) クラス別分類

a) クラスⅡ及びⅢをそれぞれa)、b)の二つに別けたこと。これはRORCの分類をそのままとり入れたものです。現在は未だこの分類にしたがつてレースを行うほどの艇数はありませんが、近く大型艇がどんどん増加して行く見通しなので国際的な分類法をルール上採り入れたものです。

b) クラスV、JOGルールのローリミットをそのまま取り入れました。つまりレーティング12呎以上、計画水線長が16呎以上ということです。なお、クラスNとVをJOGではレーティング16.5呎の線で別けていますが、この線で別けると、NORCの中樞艇群である24呎前後の艇がNとVに分かれてしまうので、日本の実情としては不適當であるので従来のまゝ、16呎以下をクラスVとしました。

クラスVのローリミットは今まで無かつたものですが、これは総べてのNORC登録艇にレース参加の可能性を残した方がよいということから、クラスVの底をオープンにしてあつ

たものです。しかし、今回はレーティングによる分類外でNORCに登録している艇のレースについては各支部で実情に応じてこの共通ルールとは別個に規定を設けてレースを把握するということを方針として決定したわけです。

- 2) レーティング。従来の規定は「有効な計測証明書」がなければならぬとされていたのですがこれが実情にそぐわないので「NORCの有効なレーティング」を所持していることに改めました。
- 3) 乗員。乗組員は原則として4名以上という現行の規定はそのまま残ります。RORCでもOCAでもこういった規定は有りませんし、特にクラスVの艇については不当なハンディキャップになるので改正した方が良くと云う意見も強かつたのですが、「特に定める場合を除き」という現行の規定のままで、相模湾ボイレートレース等のように実際のレース運用上の条件として適宜考えることで良いのではないかということになりました。
- 4) 遅延料。従来¥2000と明文化されていたものを、金額を明示しない形にしました。これは附則で決める方が良いでしょう。
- 5) 帆走委員会。その担当レースについては安全委員会の権限を代行することを明記しました。
- 6) 帆走指示書。参加艇の艇名、セール番号、レーティング及びTCF又はタイム・アローワンスを記載しなければならないとしました。従来はタイム・アローワンスが脱けていたのです。
- 7) 早過ぎるスタート。従来の規定では「帆走委員会が早過ぎるスタートをした艇があることを示す信号を発した場合には」早過ぎるスタートをした艇は自らの責任で再スタートしなければならないとなっていたのですが、上記の「」の部分を取ることにして、早過ぎるスタートをした艇は信号の有無にかかわらず自らの責任で再スタートしなければならないことを明確にしました。
- 8) セールの取付け及び展開。JOGルールではスピンを使用していない場合で追手に観音開きにジブを使用する時に使うボールの長さの制限がありませんが、この規定を「クラスIV以下だけのレースの場合」という条件つきでNORCルールに取り入れました。JOGのこのルールは小型艇の無理なスピン帆走をさけるという考えから来たものなので、この条件は付けなくても良いかと思われそうですが、レース運営の公平のためにはこの型の方が良いだろうということでこのように決まりました。

4) エンジンの使用。従来スタート5分前以後は使用してはならなかつたものを10分前以後と改正し、同じくスタートに10分以上遅れた場合にはスタートラインに着くまでの使用を認めた規定を15分以上遅れた場合と改め、更に、帆走に移つてから360°以上旋回してからスタートしなければならないとの規定を「360°以上旋回して後はじめて航路権を得るものとし、正常にスタートをしたかもしくはしつつある艇を妨害してはならない」と改めて、正常にスタートする艇の権利を明確にしました。

5) 登録番号の表示。セールナンバーの大きさについて1967年ルールではRORCの規定をそのまま採用していたのですが、クラスⅣ以下の小型艇の場合にはこれでは大きすぎるので、新にクラスⅣ以下の場合の寸法を決めました。これは本年四月以降に製作されるセールに適用されることになります。

なお、ルールには入れませんでした。ジェノアジブにもセール番号を入れることを奨めたと思います。OCAではルール上規定していますが、ジェノアのようにメンスルをオーバーラップするセールはメンスルのセール番号の確認を大変難かしくする場合が多いので、ジェノアにも番号が入っている方が便利でしょう。

6) 棄権艇の通知義務。「出艇申告をした艇でスタートをしない艇は速かにその事実を帆走委員会に報告しなければならない」との規定を加えました。

7) 艇外乗出しの禁止。「レース中は艇のバランスを取るため乗組員は故意にライフラインより外側に体を出してはならない。又トラビーズ等の使用は禁止する」との規定を加えました。レースの条件が次第にきびしくなってきましたので念のため。

8) 航跡図。航跡図は「特に定める場合を除き」(ポイレトレース等のように) 提出を義務付けしました。又、航跡図にレース中のルール違反の事件以外に、事故が有つた場合にはこれについても報告する必要があることを明記しました。

以上の外、用語上の改正点がいくらかあります。未だ色々と不備な点もあるかと思いますが、レース運営の実際から問題がでましたら是非本部に報告・提案をして頂きたいと思います。

関東支部以外の支部では本年からこの規則を統一ルールとして使つて頂くわけですがこのルールは比較的柔軟な規定が多いので、特に支障は無いと思われますが、問題が生じた場合には是非本部まで御連絡下さい。

II 安全規則の改正について

安全規則の今回(1968)の改正の一番大きなポイントはNORC登録艇の安全条件について大きく三つのグループに別けたということです。つまりクラスⅢ以上の艇(RORCに相当)、クラスⅣⅤの艇(JOGに相当)、その他の艇に別けて安全条件を考えるということです。

この外、安全検査証書の有効期限が現在6月30日迄となつていたのが、3月31日迄となりました。昨年度に検査を受けた艇は本年6月末まで有効ですが、それまでの間に各フリートの安全委員と相談の上、今回の新しい安全規則に基いて本年度の検査を受けなければなりません。本年度の新しい証書が無ければ6月30日以降のレースには出場できません。

1. クラスⅢ以上の艇

今まで通り、基本的にはRORCの特別規則及び安全規則に準じて、できるだけ国際的に試験済みのこの条件に従つて行なうということです。

本年度の改正点を以下あげると

a) パルビット、ライフライン

昨年度のルールに取入れられた条項の内実施について一年間の猶予のあつたものの一つですが、本年からは強制条件となります。つまりパルビット、ライフラインの高さ61cm以上等の規定に満たない艇は安全検査でクレームがつけられます。

b) 自動発光ブイ

これも猶予中のものだったのですが、ライフブイ1ヶに自動発光ブイを付けなければなりません。

c) ライフラフト

同じく本年からは必要条件になることが1967年ルールに明記されていたものですが、RORC規則に準じて、ライフ ラフトはデッキ上に置くか、ライフラフトだけを入れる凹みに置いてすぐ取り出せるようにしなければなりません。

なお、デッキ上に置く場合、緊急時に簡単に使用できる状態にするようにして下さい。

又、ライフラフトの搭載品目の内、パラシュート付き信号弾は不要になりました。ただし、その他の備品はライフラフトに積まないと合格しません。この点については特に確認することになっていますので注意して下さい。

d) デインギ

本年度からRORCに準じてデインギは強制備品になる予定でしたが、日本の実情にそぐわないので、推奨備品にするように改正されました。

なお、ホンコンマニラレース等の国際レースに出場する場合にはデインギは強制備品となる事が多いので注意して下さい。ライフラフトはこの場合デインギとは見做されません。

II クラスⅥとⅤの艇

今回の改正点の大きなポイントはクラスⅣとⅤの安全条件についてはできるだけ英国のJOGの特別規則及び安全規則に準じて行うということにして、クラスⅢ以上の艇と条件を変えたことです。今までもクラスⅣ以下の艇に大型艇と同一条件を当てはめることによる無理が色々問題になってきましたが、今回の改正でその点が考慮されたわけです。

a) 船体について

吃水、復原力指数、コックピットの容積指数等についてJOGの規定をそのまま取り入れました。この規準に満たないものはクラスⅤ外の艇、つまり「軽クルーザー」(仮称)として別扱いになります。

現在クラスⅤの艇としてレースに参加しているものについてはこの基準に満たない恐れは全くないでしょうが、本年度の安全検査でこの点も点検されます。

b) バルビット、ライフライン

クラスⅢの基準以下に緩和された項目です。

本年度からクラスⅢ並み(RORCと同程度)に強制される予定だったのですが、ライフライン、バルビットの高さについてはクラスⅢ以上が61cmと規定してあるものを、クラスⅣⅤについては300mm以上となりました。

c) ビルヂポンプ

クラスⅤは一組でもよろしいということになりました。(クラスⅢ以上は手動一つを含めて2組)

d) 消火器

クラスⅣ、Ⅴについては現行の2ヶが1ヶでよろしいということになりました。

e) コンパス

これも現行の2ヶ以上が、クラスⅣ、Ⅴについては1ヶ以上と改正

f) 自動発光ブイ

クラスⅢ以上の場合と同じく、本年からこれは強制備品として、ライフブイ2ヶの内1ヶに取付けなければなりません。

g) ライフラフト

これもクラスⅢ以上の場合と同じ条件で、本年度からはデツキ積みになければなりません。これは英国のJ O Gのルールよりきつい規定ですが、安全カーということでクラスⅢ以上の艇と同一基準で行うということになりました。クラスⅣ以下でライフラフトのデツキ積みは頭丈に固着しなければならないため、緊急時の使用の際にはかえって困難ではないかという問題もあるので、デツキ格納の方法等については充分研究して下さい。

◇ 会 員 名 簿 の 配 布

長らくご不自由をかけておりました会員名簿も漸く発行出来まして、各位のお手許まで届けましたが誤印刷、印刷もれ等が相当出来た不仕末振りに恐縮しています。

ご住所、電話番号、勤務先等に変更をきたしました折にはご一報願います。N O R C ニュースに掲載いたします。

◇ 年 会 費 の 納 入

本年度(43年)年会費の納入を受付けておりますからお早目をお願いします。

納金先

現金～N O R C本部宛

振込～{ 住友銀行虎の門支店普通口座
日本勧業銀行京橋支店普通口座

口座名～日本外洋帆走協会

支部 会員	関 東	内 海	東 海	京 都	西 内 海
特 別	6,500	5,000 3,000	6,000	6,000	3,500
普 通	3,500	1,000	3,000	3,000	1,500
候 補 生 (登録料)	1,500	—	1,000	1,000	—

(註) 関東支部は「油壺記念碑積立金」¥500加算

内
南海支部は「支部会費」を含んでおりません。

◇ヨット泊地案内の配布

前号NORCニュースにて発刊の趣旨と配布につきましてお知らせいたしましたが、フリート単位
にて未配布の方が多分にありますので、未配布の方々はご面倒ですがお立寄り下さるかご一報願
います。

◇新登録艇の紹介

支部	セール No.	艇 名	RIG	クラス	L O A × L W L × B × d	オーナー	フリート
関東	320	仰 秀 II (旧若王丸)	S	IV	24' 6×24' 0×7' 6×4' 1½	本座栄一	小網代
"	614	は や ま る	S	III	10' 100×7,400×2,750×1,770	立松泰雄	油 壺
"	615	天 城	S	III	32' 8×24' 2×9' 6×5' 1	渡辺修治	小網代
"	618	だほはぜII	S	IV	7,525×6,096×2,286×1,524	土屋徳三郎	油 壺
"	619	HIRO	S	IV	24' 11×24' 0×7' 6×5' 0	山本 弘	小網代
"	346	SUNGO (旧飛車角)	S	IV	7' 473×6' 100×2' 363×1' 410	鳥飼俊宏	小網代
"	180	CYCLONE (旧だほはぜ)	S	IV	6' 100×5,374×1,920×1,180	土肥由夫	油 壺
"	178	NOA-NOA (HEIGHTY-EIGHT)	S	IV	7' 650×6' 450×2' 420×1' 300	山下 直	油 壺
"	305	龍王丸 (旧龍王丸)	S	III	9' 296×7,239×2,717×1,600	森 茂葉 山	
東海	232	PETIT PRINCE	S	IV	7' 490×5,800×2,420×1,500	伏原幹一郎	鬼 崎

◇ 会 員 の 異 動

特別会員より普通会員へ

- 3376 沼口日出士 (AOLELE II) 海外在留中
6607 奥田 広 男 (龍王丸オーナー変更による)
7826 W.B.JACKSON (LADY MARIANA 転売による)

普通会員より特別会員へ

- 5554 向井七男也 (AOLELE II)
5582 志多伯泰雄 (NORO II)
7764 土 肥 由 夫 (CYCLONE)
84 伏原幹一郎 (PETITPRINCE) (東海支部)

新 入 会 員

会 員 №	氏 名	住 所 (TEL)	勤務先 (TEL)	フリート	所 属 艇
	(関東支部)				
	(特別会員)				
68-903	本 座 栄 一	東京都江東区深川猿江町2-5 (633)0898	東大附属海洋研究所海底地質学講座 (376)1251	小網代	(320)仰秀Ⅱ
68-909	飯 田 勘 一	神奈川県横浜市中区蓬来町3-104 横浜 (261)1321	飯田商店 (261)1321	油 壺	(621)TAIYO
	(普通会員)				
68-899	林 賢 之 輔	神奈川県逗子市新宿3-11-30 (0468) 71-6807	横山造船設計事務所 (045)651-1421 内5		
68-900	山 中 平	埼玉県浦和市栄和976 (0488) 31-9699	山中製作所 (0488)31-9699	小網代	天 城
68-901	雨 宮 俊 夫	東京都杉並区阿佐谷北2-38-22 佐藤方 (338)5730	日本大学在学	油 壺	MISS SUNBIRD
68-904	石 渡 四 郎	" " 西荻北3-36-11 オリンパス西荻寮	(399)9660	諸 磯	OLYMPUSⅢ
68-905	林 岳 彦	" 世田谷区成城町227 (416)1683	武蔵野美術大学在学	"	"
68-906	田 辺 穂	" 練馬区東大泉町466 (922)2569	日本原子力船開発事業団運航準備室 (501)4976		
68-907	佐 野 修	神奈川県横浜市磯子区汐見台2-9 屏風ヶ浦住宅117号	運輸省航海訓練所研究調査部		
68-908	伊 藤 和 男	東京都品川区小山5-19-12 (781)5190	駒沢大学在学	諸 磯	OLYMPUSⅢ
68-910	吉 田 昌 兼	神奈川県横浜市南区六ツ川1-640 横浜 (731)8430	飯田商店 (261)1321	油 壺	TAIYO
68-911	小 堀 正 志	" 西仲町1-23 横浜 (231)4147	丸菱石油 (231)4147	"	"
68-912	野 沢 進 司	東京都千代田区神田神保町1-71 (292)8992		小網代	飛車角Ⅱ
68-913	後 閑 宗 平	神奈川県川崎市長尾940 (044) 83-5967	三菱化成商品研究所 (044) 83-5967	"	"
68-914	神 藤 賢 次	神奈川県三浦郡葉山町堀内492	NHK放送センター技術部	葉 山	いだてん
	(候補生)				
68-902	池 内 貞 二	神奈川県逗子市新宿3-5-47 (71)5041	上智大学在学	油 壺	おおりゆう
68-914	神 藤 賢 次	神奈川県三浦郡葉山町堀内492	NHK放送センター技術部	葉 山	いだてん
	(東海支部)				
103	◎ 加 藤 蔵 男	四日市市富田浜町3-14 (0593)65-1058	加藤蔵男商店 (0593)65-1058	富田 港	(218)あかちゃん
104	成 田 郡 司	名古屋市熱田区伝馬町3-2	大成工機商会 (681)3521~5	鬼 崎	YOSHICO
105	◎ 柴 田 俊 彦	" 東区代官町23 (941)1134	博光堂 (941)1134	"	(233)しやち
109	野 畑 義 彦	知多郡横須賀町大字養父字八ヶ池3 尾張横須賀 (2)1690	三菱重工 (株)名古屋航空機製作所 第2技術部 (611)2111	"	伊 勢
	(西内海支部)				
35	佐 野 之 昭	福山市北吉津町129			
36	松 石 頼 光	安芸郡海田町	学 生		パピオン

◇ 住 所 変 更

会 員 №	氏 名	住 所
	(関 東 支 部)	
	(特 別 会 員)	
3 4 0 2	中 島 伸 之	千葉県八日市場市イー1304八日市場国保病院外科内
7791	湯 浅 明 彦	静岡県沼津市大岡1705

(普 通 会 員)

6 6 6 5	服 部 文 男	東京都港区赤坂4-2-25
6 6 1 1	小 黒 公 一	" 大田区田園調布4-34
6 6 2 7	沢 山 昇	" 渋谷区千駄ヶ谷3-59-8原宿マニコーポ505
5 5 5 3	神 服 巖	東京都中野区上高田1-46-1 田島荘内
5 5 6 2	柴 田 俊 彦	埼玉県浦和市元町2-2-2

(内 海 支 部)

1	◎ 颯 川 三 郎	西宮市上甲東園1-159
2 2	重 本 弘 定	香川県三豊郡豊浜町姫浜1245-1
3 3	◎ 白 戸 健	岡山県玉野市和田町5-3-19-102
4 9	大 橋 哲 也	豊中市赤坂1-36
5 8	◎ 岩 井 英 夫	芦屋市奥山1-156

(西 内 海 支 部)

3	◎ 藤 井 成 之	広島県橋本町5-18
3 1	菅 美 昭	" 広島市西白島町8-9
3 2	出 崎 進	" " 基地34(中国放送内)

◇ 会 員 名 簿 記 載 洩 れ

今般配布いたしました会員名簿の内で記の方々の印刷洩れがありましたので追記願います。

会 員 名 簿 記 載 洩 れ

会 員 No	氏 名	住 所 (TEL)	勤 務 先 (TEL)	フリート	所 属 艇
	(普通会員)				
1225	吉 田 多摩夫	東京都世田谷区東玉川町142(720)5847	東京水産大学	小網代	古 鷹
3413	未 延 道 彦	" 港区麻布本村町163-1 麻布オニコーポ605号	富士銀行(株)外国営業部	小網代	BERMUDA
6735	依 田 蒼	東京都板橋区双葉町30 (961)0953	S B 食品(株)販売部	油 壺	MISS SUNBIRD
7848	鯨 井 征 一	神奈川県横浜市保土谷区常盤台282-98 横浜(045)331-0187	鯨井事務所	小網代	飛車角 II
5571	大 森 孝 成	北海道北見市中之島43北見パール(株) 白楊寮	北見パール(株)	油 壺	DAMOI
5590	JOHN・C・LEAVY	東京都練馬区田代町2-2ムジミ台アパート12-B	横須賀米海軍基地	横須賀	SEA WITCH

◇ 外 洋 レ ー ス 一 覧 表

内海支部分は原稿未着のため次回に掲載します。

◇ 1 9 6 8 ' 外 洋 レ ー ス 一 覧 表

支 部	レース名	開 催 日	コ ー ス	スタート	距 離
関 東	㊦ 1回初 島	4/ 6(土)～ 7(日)	小網代～初島～大磯～小網代	4/ 6 24.00	52哩
	㊦ 2回大島回航	4/28(日)～29(祝)	小網代～大島(反)～小網代	4/28 10.00	68 "
	㊦ 2回八丈島	5/ 2(木)～ 5(日)	下田～八丈島(反)～城ヶ島	5/ 2 12.00	240 "
	㊦ 18回大 島	5/25(土)～26(日)	小網代～初島～大島(反)～小網代	5/25 08.00	82 "
	㊦ 2回初 島	6/29(土)～30(日)	小網代～初島(時)～江の島	6/29 20.00	48 "
	㊦ 9回鳥羽パール	7/26(金)～28(日)	鳥羽～城ヶ島	7/26 午 前 中	150 "
	㊦ 13回神子元島	10/18(金)～20(日)	小網代～神子元島～小網代	10/18 23.00	99 "
	㊦ 3回初 島	10/26(土)～27(日)	小網代～初島(反)～小網代	10/26 24.00	48 "
	㊦ 6回小網代カブ	11/23(土)～24(日)	小網代～大島(時)～小網代	10/23 10.00	68 "
東 海	伊勢湾レース	4/ 7(日)	鬼崎～伊勢湾灯標～白子～鬼崎	4/ 7 06.00	27 "
	㊦ 熊野レース	4/28(日)～29(祝)	鬼崎～浜島	4/28 00.00	52 "
	㊦ 蒲郡レース	9/22(日)～23(祝)	鬼崎～三河大島～野島～衣浦	9/22 00.00	60 "
	㊦ 野島レース	11/ 3(日)	鬼崎～野島～鬼崎	11/ 3 00.00	35 "
	㊦ 鳥羽レース	7/26(土)～27(日)	鬼崎～鳥羽	7/21 00.00	25 "
京 都	沖ノ島	5/11(土)～12(日)	ビワコ大橋～沖ノ島～大橋	5/11 未 定	20 "
	㊦ 多景島	6/ 8(土)～ 9(日)	沖ノ島～多景島～沖ノ白石～沖ノ島	6/ 8 "	30 "
	㊦ 竹生島	7/ 7(日)～ 8(月)	沖ノ島～竹生島～沖ノ白石～沖ノ島	7/ 7 "	54 "
	㊦ 近江舞子	8/24(土)～25(日)	大島～沖ノ白石～近江舞子	8/24 "	24 "
	㊦ 竹生島白石	10/ 5(土)～ 6(日)	浮御堂～竹生島～宮ヶ浜	10/ 5 "	56 "
	㊦ 満月クルージング	9/ 7(土)～ 8(日)	京都 ヨット クラブ～長命寺～多景島～京都 ヨット クラブ	9/ 7 "	35 "

支 部	レース名	開 催 日	コ ー ス	スタート	距 離
西内海	安渡島レース	4/ 7(日)	廿日市～絵の島～大小弁天島～包ヶ浦	4/ 7 未 定	
	安芸灘レース	5/25(土)～26(日)	宮島(鷹の巣)～柱島水道～鹿島沖～亀ヶ首	5/27 "	
	ダイヤモンドレース	7/ 7(日)	宮島～白石礁～兜島～阿多田島～絵の島	7/ 7 "	
	別府レース	8/10(土)～11(日)	大島(小泊)～別府	8/10 "	
	柱島レース	10/ 5(土)～ 6(日)	宮島～手島～絵の島	10/ 5 "	

湾内ポイントレース

支 部	レース名	開 催 日	コ ー ス	スタート	距 離
関 東	相模湾ポイントレース	毎月1回	小網代<江の島>小網代 葉 山	小 網 代	
	" 大島シリーズレース	大島レースと5月・6月の相模湾ポイントレースとの総合得点			
	" 神子元島シリーズレース	神子元島レースと10月・11月の相模湾	" "		
東 海	㊦1回伊勢湾ポイントレース	1/14(日)	鬼崎～伊勢湾 灯 標 湾灯標	1/14 09.00	10哩
	" ㊦2回 " "	2/25(日)	同 上	同 上	"
	" ㊦3回 " "	3/17(日)	同 上	同 上	"

Ⅱ 関 東 支 部

◇関東支部第5回通常総会開催

前述の㊦5回通常総会に引続いて飯島専務理事、古屋支部長所用退場のあと代行して諸議案の審議をなし、43年度計画レースの一部(㊦2回大島回航レース)変更し、全議案の承認を得て盛会裡に終了した。

審議議案～前記(頁)と同じにつき省略

◇理事、(役職)及び各委員会委員

理 事

関谷健哉(会長) 古屋徳兵衛(副会長) 大儀見 薫(専務理事) 飯島元次(常務理事)

渡辺修治 横山 晃 外山賢三 関根久 吉谷龍一

総務委員会～名和幸夫 安岡信一

安全委員会～別紙参照 P20

計測委員会～別紙参照 P17

レース委員会～大儀見薫 稲富敬 福吉信雄 吉田義明

海事普及委員会～関根久 落合公平 加藤栄美 石原慎太郎

水路委員会～福永昭 守屋克巳

◇ 常 任 委 員 会

才1回(1月定例) 昭和43.1.18(木) 出席者19名

議 題

1. 才5回通常総会(2/18)招集準備について
2. 理事の改選について
3. そ の 他

なお、議題の審議未了となり1月23日18.3.0より継続開催した。(出席者14名)

才2回(2月定例) 昭和43.2.8(木) 18.3.0 出席者20名

議 題

1. 1968年版レース規則、安全規則の刊行について
2. 関東支部各委員会の委員及び各フリートキャップテンの選任について
3. 才5回総会開催準備進行状況について
4. そ の 他

才3回(3月定例) 昭和43.3.13(水) 18.3.0 出席者20名

議 題

1. 第1回初島レース(4/6~7)の開催について
2. 1968'安全検査の実施について
3. 油壺記念碑積立金運営委員会(仮称)の結成について
4. 則武常務理事の後任者について
5. そ の 他

なお、本年度の月例常任委員会開催日は下記のとおりです。

1月18日(木)	5月7日(火)	9月3日(火)
2月8日(木)	6月4日(火)	10月1日(火)
3月13日(水)	7月2日(火)	11月5日(火)
4月2日(火)	8月6日(火)	12月3日(火)

○1968年度計測委員及び助手

委員：渡辺修治(委員長) 今北文夫 稲垣豊郎 小林和夫 北村純一 国松 磐 河上憲司

村本信男 関根 久 周東英卿 武市 俊 戸田邦司 山崎利治 以上13名

助手：高橋太郎 関根照久 以上2名

尚関根久委員は主にSAILの計測を担当致します。

○1968年度計測実施日(但しカッコ内は予備日)

1月7日、14日(28日)	2月25日	3月24日(31日)	4月14日(28日)	
5月19日	6月2日(23日)	7月14日	8月18日(25日)	9月15日(29日)
10月13日	11月3日(17日)	12月1日(15日)		

尚、予備日には計測日に天候その他止むを得ざる事由に因り、計測出来なかつた艇の計測を行い、新規申し込み艇の計測は原則として行いません。

○"1968年度計測規則"及び"計測申請手続等に関する規則"附"計測の手引"を現在作成中につき5月初旬頃会員の皆様に配布する予定。

○計測証明書の有効期限

計測証明書の有効期限（計測規則（1968年度版）才9条※証明書の有効期限は発行日より2ケ年とす）についてはその期限を延長すべく現在改正案を検討中です。従つてすでにその有効期限の到来し、又は近く到来する計測証書については、有効期限に関する改正案が正式に決定するまでは、その計測証書は有効なものとして取扱います。

○ホンコン・マニラ・レース参加艇（ミス・サンバード及びミネルバⅢ）の図面、アウトプット・データ及び計測証明書のコピーを参考資料としてHONG KONG ROYAL YACHT CLUBに送りました。
（周東記）43.3.6

◇ 安 全 委 員 会

1. 去る3月8日（金）18.30より1968' 安全規則の刊行に伴う委員の実行要領等についての打合せ会を開催した。

フリート別の担当委員は別記のとおりです。

安全検査を受けられる場合にはNORC本部にて所定の手続をされて、申込者自身より自艇の所属フリートの委員に連絡して受検されることになっております。

2. 軽クルーザー委員会の設置について

軽 ク ル ー ザ ー 委 員 会

1. 昨年10月の理事会で、「軽クルーザー委員会」が結成されました。

この委員会は、外洋レース艇（クラスⅠ～Ⅲ）やJOG（クラスⅣ、Ⅴ）の基準に達しない外洋帆走艇を軽クルーザーと仮称しその扱いの方針を立案します。

委員は、横山晃（委員長）、大儀見薫、渡辺修治（関東）松木哲、津田郁太郎（内海）大橋郁夫（東海）井上正春（京都）田中敬一（西内海）の各氏で、既に活潑に討議を重ねています。

2. 本年2月18日の理事会で、NORC登録艇の最低基準が立案されました。

この最低基準を下限とし、JOGの最低基準を上限とする範囲が「軽クルーザー」ということになります。

この軽クルーザーの最低基準は

- (1) 全長5 m以上
- (2) 復原範囲 100°
- (3) 不沈性の条件としては、開口部にフタがあること。100°ヒールで艇内に浸水しないこと。

コクピットは自動排水または浮力体を持つこと。

- (4) 乗員の半分の寝場所、全員に対する炊事設備。

但し、各支部安全委員が不適当と認めた艇は登録を拒否、または取消することができる。

登録申請は、各オーナーの申告によるが、事務局又は安全委員会が疑問を持つた艇だけは検査を行う。

「軽クルーザー」がレースを行う場合には、他のクラスに比べこのタイプの艇ではレース参加予定の艇の実情、レース予定海域の海象、気象等ローカルな条件に左右される度合いが強いため、各支部ごとに把握し、別にルールを定めて行なうことにするという方針で考えています。

したがって統一ルールとしてこのNORCレース規則及び安全規則とは別個に支部ごとに軽クルーザーの実情に見合ったルールを確立して「軽クルーザーレースを運営することになります。

概略、以上のような方針ですが、「軽クルーザー委員会」で更に検討の上方針を成文化して、各支部、及び理事会に計る予定です。

安 全 委 員 会

◎1968年安全規則ができました。

改正されました点は

1. 検査証書の有効期限が3月31日になります。(今年の検査合格は、来年の3月31日まで有効です。) — 5条 —
2. 登録艇がクラスⅢ以上、クラスⅣ、Ⅴ(JOG)と、その他との3種類に類別され、それぞれの技術基準に差が出来ます。 — 7条及ライフライン高さ。検査リスト、9.1 4.1 5.2 0. 2 4. —
3. JOGの安全規則は、英国のJOGルールと殆んど共通になりました。 — 7条の吃水規制、復原力指数、コクピット容積指数など —

4. ㄆ7条の内容は、検査現場での判定が困難なので、「ㄆ7条保留」という仮合格とし、後日、判定結果を算定します。

5. 関東以外の各支部は、各支部毎に若干の技術基準の増減を行う見込みです。

関東でも、レースによつては若干の増減を行うことがあります。

安 全 委 員 名 簿

担当フ リート	氏 名	所 属 艇	連 絡 先 (勤 務 先)
委員長	横 山 晃	松 籟	横山造船設計事務所 (045)651-1421 (内)5
小網代	近 藤 禎 之	八 丈	講談社辞典出版部 (942)1111
"	飯 島 征四郎	SALMON II	三 幸 ㈱ (535)4561
"	高 野 克 巳	さがみ II	奥山印刷所 (551)8870
"	野 村 清	はやとり	㈱関東自動車工業 (0468)61-3131
"	山 下 清 一	天 城	東栄ボート (大楠) 128
油 壺	池 田 亀之助	MAYA II	㈱五光製作所設計課 (718)3156
"	横 山 勝 重	SIRENA	㈱日本鋼管、鶴見造船所 (045)511-1331
"	武 村 洋 一	MISS SUNBIRD	S B 食品㈱ (668)0551
"	石 川 昇	CONTESSA II	A I U . K K (216)6611
"	永 江 三 良	あきつき	小松電子金属㈱ (0463)22-1313
諸 磯	浦 野 純	T A K I	文化放送編成局制作部 (357)1111
"	千 葉 徹 也	CHRISTINA	インターオア (211)3691
葉 山	小 田 達 雄	JOVIAL FIVE II	東京海上火災保険㈱ (212)6211
"	宮 野 邦 重	MAMBOW	住友海上火災保険㈱総務部 (272)3251
江の島	大河原 明 徳	CYGNUS	日本郵船㈱海務部労務一課 (212)4211

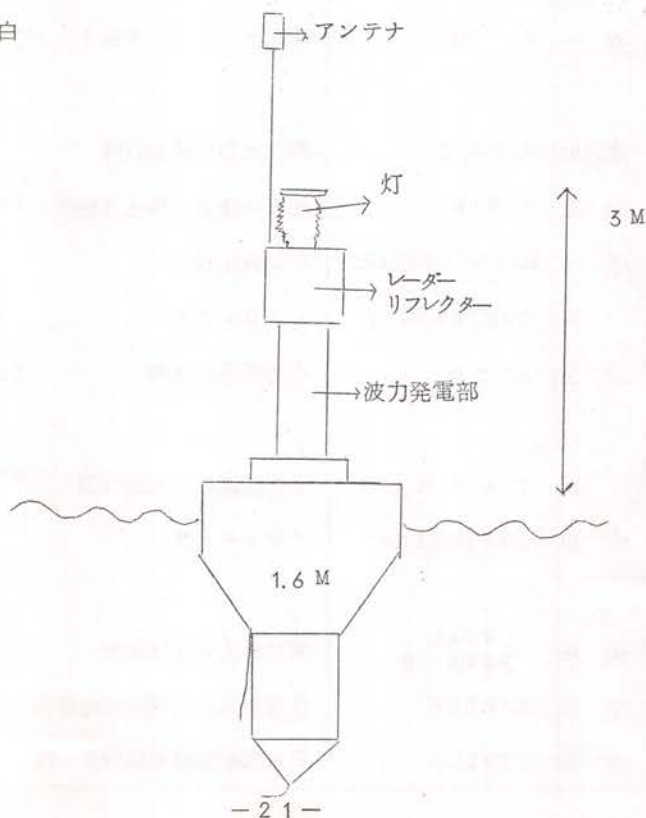
◇ レース委員会

1. 4月6日の第1回初島レースについて

4月6日の第1回初島レースのコースは帰りに大磯沖の自衛隊のブイを廻ることになっています。従来の「行つて来い」の単調な初島レースをもう少し面白いものにしようということで、たまたま本年10月まで防衛庁技術研究本部が開発している波浪利用発電ブイが試験的に大磯沖に設置されているのでこれを利用して見ようということにしました。位置、及びブイ本体の概略は次の通りです。

位置 東経 $139^{\circ} 20' 2''$
 北緯 $35^{\circ} 13'$
 大磯港灯台 358°
 平塚馬入河河口航空灯台 20°
 江の島灯台 63°
 初島灯台から $42.5^{\circ} (317.5^{\circ})$

Fe 3 Sec 白



2. 相模湾ポイントレース

1968年月例ポイントレースの成績は別記のとおりです。

なお、1967年下半期の会計（収支）は下記のとおりです。

1968年前期第1回相模湾ポイントレース成績表

(昭和43年1月21日～ 日)

コース：小網代～葉山～小網代

S・T クラスⅣ及びⅤ0900 クラスⅡ及びⅢ0915

クラス	セール№	艇名	オーナー	艇長	T・C・F	() 回航時間	到着時間 (FT)	所要時間(ET)	修正時間(CT)	順位		着順	得点
										クラス	総合		
Ⅱ	358	潮風Ⅲ			784		時 分 秒	時 分 秒	時 分 秒		DNF	DNF	1
Ⅲ	610	飛車角Ⅱ			756						DNF	DNF	1
	614	はやまる			755						"	"	1
	615	天城			754		16・50・08	7・35・08	5・43・10		1	1	23
	305	龍王丸			745						DNF	DNF	1
	382	FLYING KARPET			741						"	"	1
	396	さちかぜ			741						"	"	1
	367	TILDE			739						"	"	1
Ⅳ	379	MAMBOW			721						DNF	DNF	1
	361	AOLELEⅡ			711						"	"	1
	366	もさⅢ			710						"	"	1
	365	PIONEERⅡ			710						"	"	1
	340	SHARK X			709						"	"	1
	179	SIRENA			708						"	"	1
	618	だぼはぜⅡ			707						"	"	1
	374	高麗			704						"	"	1
	608	明日香			703						"	"	1
	602	桜工			701						"	"	1
	315	OLYMPUSⅢ			701						"	"	1
Ⅴ	322	朝風			700						DNF	DNF	1
	334	JUNE BRIDE			694						"	"	1
	324	あかつき			688						"	"	1

1968年前期第2回相模湾ポイントレース成績表

(昭和43年2月11日～ 日)

コース：小網代～葉山～小網代

Ⅳ・Ⅴ：0900 Ⅱ及びⅢ：0915

クラス	セールNo	艇名	オーナー	艇長	T・C・F	()回航時間 日 時 分	到着時間 (FT) 時 分 秒	所要時間 (ET) 時 分 秒	修正時間 (CT) 時 分 秒	順位		得点	累計点
										クラス	総合		
Ⅱ	380	MISS SUNBIRD		山崎 達光	826		13・46・30	4・31・30	3・44・16		10	4	4
	358	潮風Ⅲ		福吉 信雄	784		14・19・59	5・04・59	3・59・06		19	2	3
Ⅲ	388	稲龍		清水 泰治	772		14・03・47	4・48・47	※3・54・05		17	2	2
	188	CONTESSAⅡ		石川 昇	770		14・02・20	4・47・20	3・41・15		9	5	5
	610	飛車角Ⅱ		周東 英卿	763		13・58・33	4・43・33	3・36・21		6	9	10
	614	はやまる		武市 俊	(仮) 755		13・56・57	4・41・57	3・32・52		4	13	14
	615	天城		渡辺 修治	(仮) 754		14・13・15	4・58・15	3・44・53		11	2	25
	383	TONGA			739		14・24・42	5・09・42	※4・00・19		20	2	2
	396	さちかぜ		小坂 順孝	737		14・33・25	5・18・25	3・54・40		18	2	3
Ⅳ	319	MAMBOW		宮野 邦重	721		14・42・59	5・42・59	4・07・17		21	2	3
	183	CYGNUS		大河原 明德	717		14・16・02	5・16・02	3・46・36		13	2	2
	381	八丈		近藤 禎之	713		14・08・46	5・08・46	※3・51・09		16	2	2
	361	AOLELEⅡ		向井 七男也	711		14・20・00	5・20・00	3・47・31		14	2	3
	366	もさⅢ		吉田 義明	710		13・54・09	4・54・09	3・28・51		③	16	17
	340	SHARK X		森村 譲二	709		13・50・51	4・50・51	3・26・13		②	19	20
	179	SIRENA		大儀見 薫	708		13・48・08	4・48・08	3・24・00		①	23	24
	618	だぼはぜⅡ		土肥 丈志	707		15・21・45	6・21・45	4・29・54		23	2	3
	374	高麗		方 栄世	704		14・11・21	5・11・21	3・39・11		7	7	8
	608	明日香		加藤 栄美	703		14・05・55	5・05・55	3・35・04		5	11	12
	315	OLYMPUSⅢ		落合 公平	701		14・13・26	5・13・26	3・39・43		8	6	7
	602	桜工		柴田 義明	701		14・22・05	5・22・05	3・45・47		12	2	3
Ⅴ	322	朝風		稲富 敬	700		14・29・46	5・29・46	3・50・50		15	2	3
	334	JUNE BRIDE		黒田 慎一郎	694		DNF				DNF	1	2
	324	あきつき		永江 三良	688		15・00・35	6・00・35	4・08・05		22	2	3



1967' 下半期相模湾ポイントレース会計報告

相模湾ポイントレース運営委員会

月別		前期計	7	8	9	10	11	12	後期計	合計
支 出	収 入	252,000	32,000	48,000	44,000	52,000	52,000	40,000	268,000	520,000
	パーティ費	76,000	9,900	11,000	9,900	15,400	15,400	16,500	78,100	154,100
	コミッティー ボート使用料	24,000	3,000	7,000	5,000	3,000	3,000	5,000	26,000	50,000
	マーク代(葉山)	12,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	12,000	24,000
	＃(江の島)	12,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	12,000	24,000
	＃(小網代)	12,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	12,000	24,000
	ガソリン代	9,000	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	9,000	18,000
	交 通 費	9,160	340	860	970	3,750	1,030	2,690	9,640	18,800
	通 信 費	2,005	360	420	330	200	200	—	1,510	3,515
	コミッティー 事務局費	17,400	1,800	2,000	5,300	—	6,800	23,600	39,500	56,900
	雑 費	1,470	135	250	—	—	—	150	535	2,005
	カ ッ プ 代	43,000	—	—	—	—	—	35,000	35,000	78,000
	ヨッテル使用料	18,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	18,000	36,000
	文字旗、数字旗	—	—	—	—	—	—	6,100	6,100	6,100
	支 出 計	236,035	26,035	32,030	32,000	32,850	36,930	99,540	259,385	495,420
差 引 計		15,965	5,965	15,970	12,000	19,150	15,070	△59,540	8,615	24,580

繰越金(残高) 24,580—

3. 本年度のレース入賞艇表彰式は下記の日時に行う予定です。

上期表彰式 8月 4日（オ一日曜日）

下期表彰式 12月 2日（オ一月曜日）

会場は追つてお知らせします。

◇ 横浜ヨット港について

横浜港拡張の為現横浜ヨット港が昭和43年3月末日を持つて閉鎖する事に決定したので横浜市内に代替ヨット港を再建してもらふ為昭和42年4月に横浜市民ヨット港再建促進委員会が発足しました。

加入団体はNORC横浜フリート、横浜市民ヨットクラブ（YCYC）横浜ヨットクラブ（YYC）横浜クルージングクラブ（YCC）の四団体でNORCは後援団体となり各団体の代表者により委員会を運営して行く事になりました。会長にはYCYCの五十嵐静郎氏を選出し運動を始めました。其の後横浜市、市長、市議会、市港湾局、教育委員会等に陳情書、歎願書を提出したり、市議会、議員を通じ市の関係者に面会し話し合等色々な運動を行つて来ましたが我々の提出した歎願書に基き42年12月に市議会オ六常任委員会に於て横浜市内に代替港を作る問題が提案され継続審議されておりましたが43年2月7日に同委員会で決議され2月27日の本会議に於て正式に決定されました場所は金沢の予定です。しかし新ヨット港は何年先に出来上るか未定で現ヨット港が閉鎖される為に其の間の停泊海面を確保しなければならないので市に交渉したところ根岸の埋立の中の善馬を仮停泊海面として86バイ（現在のハーバーに有る艇の数を86バイと計算の為）しかもらへなかつた。尚市としては学連と我々委員会を別々に切り離して考えている。86バイの内訳は大型艇用40ヶ小型艇用46ヶ（NORC分としては10バイの計算）を確保する事が出来ました。

善馬の総ての運営は促進委員会内に運営部会を作つて運営して行く事になり同部会では1バイ月額500～700位の繋船料で艇の管理は別に1フット80円で行う予定ですが艇の管理は各艇の自由意志で同部会にたのまなくても繋船出来ます。其の他他港へ移動中の艇がいて空いているバイが出来た場合は臨時に繋船も出来ますがバイの新設は出来ません。臨時繋船の場合は割増料金となります。又新ハーバが出来た場合は現在繋船中の艇は最優先的に入れます。

今後の運動としては先にも書いた様に金沢（小柴の所を埋立て作る）に出来上るのを待つてると5

年～7年後か亦はそれ以上先になる為現在埋立を初めている八地区（富岡）の中に2.3年の内建設してもらい様運動してゆく予定で再建されたヨット港にはクラブハウス、プール、物置等の設備も促進委員会で作つて行きたいと考えて現在運動中です。尚NORCの横浜ヨット港問題の責任者は横山晃安岡信一で再建促進委員会へはNORC代表として横山晃、横浜フリートから安岡信一、中山照彦、津野守邦の三人が出席しています。

以上簡単な横浜ヨット港問題の報告ですが新ハーバー又は善馬の停泊場所其の他の話が有りましたら本部又は横浜フリートの安岡迄御連絡下さい説明致します。以上

横浜フリートキャプテン

安岡 信 一

Ⅲ 東 海 支 部

◇ 43年1月以降の支部活動について次のとおり連絡いたします。

1. 第1回伊勢湾ポイントレースの結果は次のとおりでした。

1月14日 09.00スタート

	(艇 名)	(所要時間)	(T O F)	(修正時間)
1位	アルバトロス	81分	675	54分675
2位	ル ナ Ⅲ	77分	720	55分44

1967年度敢闘賞に元気づくアルバトロスは本年度最初のレースに健闘して初優勝（生れて初めての）を飾りました。

2. 2月18日開催の総会議決事項のうち東海支部関係分は次のとおりでした。

イ 本部理事として当支部から別項のとおり、角田、丹羽、佐藤（充）の3名が選任されました。

ロ 定款第10条第2項（42年度会費未納）によつて次の12名の方が除名されました。

(氏 名)	(所 属 艇)
坂 倉 敏 雄	LUNA Ⅲ
平 山 好 彦	QUERIDA
服 部 雅 彦	HOMINIS DIGNITATI Ⅱ

木 本 精之助	LYRA
山 田 実	SAN DALA
山 田 和 平	"
出 口 幸 一	EPICUREAN
十 河 清 春	EPICUREAN
長谷川 幹 郎	LYRA
竹 内 啓 二	EPICUREAN
竹 内 久 雄	あかちやん
岩 本 行 史	215

3. 同日の理事会において当支部で入会を認められた方は次の6名です。

(42.10.1~43.2.10 入会申込者)

(会員番号)	(氏名)	(住所)	(勤務先)	(所属艇)
103	加藤蔵男	四日市市富田浜町3の14	加藤蔵男商店 TEL(0593)65-1058	あかちやん
104	成田郡司	名古屋市熱田区伝馬町3-2 TEL 681-3251	柳大成工機商会 TEL681-3251	YOSHIKO

以下のNORC会員名簿に既に収録された方も同時に入会を認めました。

(会員番号)	(氏名)
99	水 谷 謙 之
100	渡 辺 行 彦
101	世 古 胤 明

4. 新規登録艇について1967、2月NORC登録艇一覧表配布以後の新規登録艇は次のとおりです。

(SAILNo)	(艇名)	(RIG)	(FLEET)	(OWNER)
230	ちどり	S	三 河 湾	小 川 晴 央
231	タレット	S	鬼 崎	服 部 一 男
232	PETIT PRINCE	S	"	伏 原 幹一郎
234	YOSHIKO	S	"	成 田 郡 司

(SAIL/No) (艇名) (RIG) (FLEET) (OWNER)

336 BIRUSHANA S 鬼崎山田雅和

5. 乗船実習について

本年度NORC主催日本丸乗船実習は都合により取りやめとなりました。

6. 乗艦実習について

東海支部主催乗艦実習は海上自衛隊の好意により既に申込みの希望者について次の要領で行われます。なお本航海には角田支部長が同行いたします。

艦名 国産自衛艦「いそなみ」「しきなみ」(同型艦)の2隻

艦要目 DD104「いそなみ」新三菱神戸S33.3.14竣工

DD106「しきなみ」三井玉野S33.3.15竣工

全長 109.7m 全幅 10.7m 深さ 8.1m

吃水 3.6m 36,000S.H.P 32kt

排水量 1,700t

日程 4月5日午前 中乗艦(横須賀港)

午後横須賀港出港、以後本州南岸四国沖を経て豊後水道を北上

4月7日午後呉入港夕方解散の予定なお、希望者は8日江田島見学

7. 43年度会費納入と会員番号について

支部雑則に基づき予告のとおり2月末で一応会員番号を整理させていただきました。今後の納入者の会員番号はその次になりますが、次回総会までに未納で退会のお申出のない場合は定款(才10条才2項)により除名されます。なお、会費未納者に対する今後の連絡は中止されますのでご了承ください。

(会費納入先)

東海銀行本店 普通預金口座 65,700

日本外洋帆走協会東海支部

8. 支部内連絡組織について

支部内の連絡の迅速効率化を図るため従来もフリート内を小グループに細分して、グループ内の連絡はグループ所属員で外から連絡を受けたものが行ふこととしてきましたが、艇の増加に伴い1

月支部例会で新しいグループ割ができました。

詳細は別紙「支部組織連絡図」の通りですが、これによつて支部所属の各艇は次のように組織されます。

東海支部 (TOKAI Sq=Squadron) - 各フリート (Fleet) - 各セイリンググループ (Sg=sailing group) - sg内各艇

9. NORC HANDBOOKについて

本年度NORC東海支部の行事計画全般を綴つたNORC HANDBOOKが発行されました。今後支部会員に一部ずつ配布されます。ファイル式で内容はまだ全部は整っておりませんが、年間スケジュール、レース要項、安全検査要項等々が記載されております。郵送料が多くかかりますので各艇で43年度会費納入者分をまとめて受取り下さい。

10. 本部会報について

本部会報は3月、6月、9月、12月の各15日に発行されることになり、締切は前月末と決まりました。したがつて支部段階での締切は前月24日と暫定し、支部事務局が取まとめますので当日までに関係委員のご出稿をお願いいたします。

11. 計測および安全検査について

シーズン入りを控え2月より計測、3月より安全検査が実施されています。本年度よりレース参加には計測および安全検査合格が条件とされますので要領により早目に実施されるよう支部事務局に料金を添えてお申込み下さい。各委員会直接のお申込は受けません。

12. レース参加申込について

レース参加希望者はレース要項記載のとおり、期日までに申込料をそえて（又は支部口座にお振込のうえ、副報告書に参加の旨記載して）支部事務局にご連絡下さい。

帆走委員は遅延申込の場合を除き直接には受けませんのでご了承願います。

13. 鬼崎ヨットハーバー協議会からのお知らせ

イ 協議会創立5周年記念写真展を4月14日から常滑市民体育館で開催いたしますのでヨット関係等の写真（四ツ切以上又はネガ）の提供を求めています。3月末〆切

ロ 同上記念法用随筆も求めています。3月末〆切

ハ 協議会旗模様の銀製七宝ネクタイ止（安藤七宝店製）が出来ましたので協議会会員（＝各グル

ーブ代表者)に限つて希望者に頒けます。価格は2,000円

以上お申込みは鬼崎ヨットハーバー白帆 荏内協議会事務局へ

14. 雑 信

イ 2月13日支部水路委員長大橋善一氏から電話開設の通知がありました。名簿にご記入下さい。

名古屋(052)651-8982

ロ 支部行事で古い会員にはおなじみの海の詩人丸山薫さんの詩集がこのたび新潮社から日本詩人全集28巻に収められて発刊されました。

15. 次回本部NEWS発行(6月15日)までの支部

主要行事は次のとおりです。特別にご案内は差上げませんが奮つてご参加下さい。

3月17日 茅三回伊勢湾ポイントレース(申込〆切3月11日)

20日 安全検査(鬼崎) 10.00

24日 " (蒲郡) 10.00

31日 " (衣浦) 10.00

4月 4日 支部例会(伊勢湾レース艇長会議)喜多八 18.30

5日-7日 乗艦実習(本州南岸において)

7日 伊勢湾レース(申込〆切3月27日) 06.00~17.00

14日 鬼崎ヨットハーバ協議会創立5周年式典並に写真展

28日 能野レース(申込〆切4月18日) 00.00~29/00.00

5月12日 茅2回三河湾ポイントレース(三谷) 10.00

16日 総務委員会(喜多八) 18.30

19日 海技教室(於主税町クラブ) 09.00~20.00

6月 6日 支部例会(喜多八) 18.30

16. その他(別紙) A 1968年東海支部役員名簿

B NORC 東海支部組織連絡図

C 1968年東海支部レース要項

D 1968年鬼崎フリートレース要項

E 三河湾ポイントレース要項

F 1968年度東海支部安全検査実施要領

G 第5回「NORC海技教室」(1966年度)要項

東 海 支 部 役 員 名 簿

支 部 長 角 田 博

(支 部 フ リ ー ト)

鬼崎フリートキャプテン 水 上 健

三河湾フリートキャプテン 広 浜 之 雄

衣浦フリートキャプテン 丹 羽 由 昌

(支 部 所 管 基 地)

衣浦ポートキャプテン 榑 原 嘉 男

(監 査)

支 部 監 査 委 員 天 野 和 茂

(支 部 事 務 局)

事 務 長 佐 藤 充 弘

庶 務 委 員 奥 村 道 子

(支 部 専 門 委 員 会)

安 全 委 員 長 坂 井 繁 之 委 員 今 関 康 志

レ ー ス 委 員 長 榑 原 嘉 男 委 員 横 山 武 司

計 測 委 員 長 坪 井 恒 彦 委 員 石 川 湊 一

海 事 普 及 委 員 長 小 島 基 作 委 員 野 沢 淳 二

水 路 委 員 長 大 橋 善 一 委 員 広 瀬 隆 久

(支 部 特 別 委 員 会)

「 軽 ク ル ー ザ ー 」 問 題 調 査 委 員 長 大 橋 郁 夫

NORC東海支部連絡図 (1968)

TOKAI SQ

支部長	
◎角 田 博	(半田商工会議所) 半田 (0569) 21-0311 愛知緑 (0560) 27-0157

支部事務局 名古屋市中区針三丁目東海銀行本店内	
事務長	
◎佐 藤 充 弘	(東海銀行総合企画) 名 (052) 211-1111 内3844
総務委員	
◎奥 村 道 子	(事務管理部) 名 (052) 211-1111 内4250

支部総務委員会	表中◎および各専門、特別委員長			
支部	安全委員長	坂 井 繁 之	海事普及委員長	小 島 基 作
専門	" 委員	今 関 康 志	" 委員	石 川 湊 一
委	レース委員長	榊 原 嘉 男	水路委員長	大 橋 善 一
員	" 委員	横 山 武 司	" 委員	広 瀬 隆 久
会	計測委員長	坪 井 恒 彦		
	" 委員	石 川 湊 一		
支部特別委員会	軽クルーザー問題調査委員長		大 橋 郁 夫	

所管事項により適宜連絡)

ONIZAKI F

鬼崎フリートキャプテン	
◎水上 健	(東陽製陶) 常滑 (05693) 5-3305 " (05693) 5-2185 (連絡補助員)
吉田鎌平	尾張大野 (05694) 2-0533 白帆荘

KINUURA F

衣浦フリートキャプテン	
◎丹羽由昌	(丹羽産業) 一宮 (0586) 62-1121 (0586) 62-1007 (ポートキャプテン)
◎榊原嘉男	武 豊 (05697) 2-0345

MIKAWA-WAN F

三河湾フリートキャプテン	
◎広浜之雄	豊 橋 (0532) 53-7111 (蒲郡ヨットハーバー) 管理事務所 鈴木所長 蒲 郡 (05336) 8-6810

101sg

198	カレン	舟 橋 盛 男	名 (052) 321-3433 (誠石油)
202	ライラ	大 矢 隆	名 471-0432
222	ルナⅢ	(フリートキャプテン)	

102sg

203	ささかぜⅡ	新 良 成 男	名 582-6211 (岡谷鋼機)
210	ケリーダ	浅 見 和 也	名 851-5494
212	い せ	石 川 湊 一	名 471-1111 内555 (三菱重工)

103sg

206	うずしお	(支部事務局へ)	
227	ネービーブルーⅡ	大 橋 善 一	名 651-8982 (又は支部長へ)
233	しやち	柴 田 俊 彦	名 941-1134

104sg

209	ホミニスD	西 沢 誠	名 941-3026
215	215	大 木 英 男	名 831-6322
228	青 Ⅱ	津 端 修 一	春明 (0568) 91-3111 (住宅公団)
336	ビルシヤナ	山 田 雅 和	名 241-2057

105sg

214	アルバトロス	坂 井 繁 之	名 721-5271 (名古屋学院)
231	タレット	服 部 一 男	名 881-0876
232	ベティブラン	伏 原 幹 一郎	名 981-4833
234	YOSHIKO	成 田 郡 司	名 681-3521 (大成工機)

301sg

216	チ タ Ⅱ	(フリートキャプテンへ)	
217	タートル	横 山 武 司	半田 (0569) 21-5111 (中電)
225	エビキュリアン	(ポートキャプテンへ)	

201sg

220	アクアマリン	(フリートキャプテンへ)	
223	リトルミックス	小 林 俊 雄	蒲郡 (05336) 8-5271

202sg

229	ジュピター	吉 村 福 徳	名 (052) 321-6381
230	ち ど り	小 川 晴 央	緑 (0560) 89-6751

(富田)

218	あかちゃん	加 藤 蔵 男	四日市 65-1058
-----	-------	---------	-------------

- 註 1. 艇名の次の連絡者は必ずしも特別会員ではない。
2. 電話欄が2行になっているものは上段が勤務先下段が自宅である。

1968年 東海支部レース要項

月 日	4 月 7 日	4 月 2 8 日	9 月 2 2 日	1 1 月 3 日
レ ー ス 名	伊勢湾レース	熊野レース	蒲郡レース	野島レース
コ ー ス	鬼崎—伊勢湾灯標(A・C) —白子(A・C・)—鬼崎	鬼崎—浜島	鬼崎—三河大島(C)—野 島(C)—衣浦	鬼崎—野島—鬼崎
漕 数	27漕	52漕	60漕	35漕
ス タ ー ト	06.00	00.00	00.00	00.00
ス タ ー ト ラ イ ン	(鬼崎Ltと防波柵灯竿を結ぶ線、灯竿より沖へ約300m、特設ブイまでの間)			
フイニッシュ ライン	スタートライン特設ブイと 漁協設置ブイの間	別図の通り	武豊港口防波堤先端を結ぶ 線	スタートラインに同じ
タ イ ム ミ リ ッ ト	7日 17.00	29日00.00	23日06.00	17.00
航 跡 図 お よ び 報 告 書 提 出 期 限	フイニッシュ1時間後	同	同	同
担 当 グ ル ー プ	ネービー・ブルーCC	タ ー ト ル	エビキュリアン	チ タ
帆 走 委 員 長	角 田 博	横 山 武 司	榊 原 嘉 男	丹 羽 由 昌
申 込 先	支部事務局	支部事務局	支部事務局	支部事務局
出 艇 料 (申 込 料)	1,000円 (非登録艇 10,000円)	同	同	同
参 加 料 (艇長以外の参加者)	会 員 500円 非会員 2,000円	同	同	同
申 込 締 切	3月27日	4月18日	9月12日	10月23日
期 限 後 申 込	(申込書に艇料に遅延料2,000円を添え直接運営委員長まで申込みのこと。但し1回艇長会議後の申込は認めない)			
艇 長 会 議	㊦1回4月4日支部例会席上 ㊦2回4月6日19.00白帆荘	4月27日19.00 白帆荘	9月21日19.00白帆荘	11月2日19.00 白帆荘
表 賞 旗	黄地白桜旗	赤地白桜旗	緑地白桜旗	白地青桜旗
賞 杯	総合：常滑市長賞(カップ) ファーストホーム：鬼崎ヨッ トハーバー協議会長 賞(カップ)	総合：千代田賞(ラット) ファーストホーム：ニュージャパ マリン賞	総合：ネービーブルー賞 (ラット) ファーストホーム：ネービ イブルー賞(短剣)	総合：みなはや賞(アンカー) ファーストホーム：杉山賞 (カップ)
表 賞 プ レ ー ト	小型プレート、各クラス毎	同	同	同
固 有 点 数	5	7	8	6
帆 走 委 員 会 の 所 在 お よ び 連 絡 方 法	4月6日19.00よりレー ス終了後1時間まで鬼崎白 帆荘 TEL(05694)2-0533	4月27日19.00よりレー ス終了後1時間まで鬼崎 白帆荘(委員駐在) 28日12.00よりレース 終了後1時間まで浜島旅館 太平洋(委員長駐在)	9月21日19.00より22 日08.00まで白帆荘(委員 駐在) 22日00.00よりレース終 了後1時間まで武豊町里中 29帆走委員長宅 TEL(05697)2-0345	11月2日19.00よりレー ス終了後1時間まで白帆 荘
帆 走 委 員 の 氏 名	広瀬隆久 阿部嶺男 補助員 吉田鍊平	戸塚 宏 赤塚義郎 補助員 吉田鍊平	竹内辰夫 谷勝裕 補助員 吉田鍊平	坪井恒彦 隅谷洋一 補助員 吉田鍊平
出 艇 制 限	な し	軽クルーザーを除く	な し	な し
緊 急 救 助 体 制 発 動 時 刻	8日 05.00	29日12.00	23日14.00	4日05.00
関 係 海 上 保 安 庁 支 所	名古屋・四日市・鳥羽	名古屋・四日市・鳥羽・浜 島・尾鷲	名古屋・衣浦・蒲郡・鳥羽	名古屋・衣浦・鳥羽

(注) 1. レース運営ならびに表賞は本要項のほかNORCレース規則に定めるところにより実施される。

2. 支部年度賞は上記4レースのうち3レースの得点をもつて決定され、総合1位に対してNORC会長賞、副賞(ツボイ賞)およ
び表賞旗(白地赤桜)が、2.3位に対しては表賞旗が、クラス別入賞に対しては表賞プレートが年度末総会において与えられる。

1968年度鬼崎フリートレース要項

月 日	1月14日(日)	2月25日(日)	3月17日(日)	7月20日(土)
レ ー ス 名	第1回伊勢湾ポイントレース	第2回伊勢湾ポイントレース	第3回伊勢湾ポイントレース	鳥羽レース
コ ー ス	鬼崎—伊勢湾灯標—鬼崎伊勢湾灯標—鬼崎(C・W)	同 左	同 左	鬼崎—鳥羽 鬼崎—鳥羽
漕 数	10	10	10	25
ス タ ー ト	0900	0900	0900	21日0000
スタートライン	(鬼崎Ltと防波柵灯竿を結ぶ線より沖へ300m特設ブイまでの間)			
フィニッシュライン	スタートラインと同じ			真珠島北東端と坂手島北端を結ぶ見通し線
タイムリミット	14日1400	25日1400	17日1400	21日1200
航跡図及び報告書提出期限	不 要	不 要	不 要	フィニッシュ1時間後
担当グループ	Epicurean	Navy Blue II	Albatros	Luna III
帆走委員長	榊原嘉男	角田 博	坂井繁之	水上 健
申 込 先	支部事務局	支部事務局	支部事務局	支部事務局
出艇料(申込料)		500円 (非登録艇2,000円)		1,000円 (非登録艇10,000円)
参 加 料 (艇長以外の参加者)		会 員 200円 (非会員500円)		会 員 500円 (非会員2,000円)
申 込 締 切	1月8日	2月19日	3月11日	7月10日
期 限 後 申 込	申込書に付艇料に遅延料1,000円を添え直接運営委員長まで申込むこと。艇長会議以後の申込みは認めない。			
艇 長 会 議	1月14日0730 8000>白帆荘	2月25日0730 白帆荘	3月17日0730 白帆荘	7月21日2000 白帆荘
表 賞 旗	な し	な し	な し	赤地白桜旗
賞 杯	チタ杯	チタ杯	チタ杯	総合 御木本杯 ファーストホーム賞
表 賞 プ レ ー ト	小型プレート総合入賞艇へ	同	同	小型プレート総合、各クラス毎
固 有 点 数	3	3	3	5
帆走委員会の所在及び連絡方法	当日0700よりレース終了後1時間まで鬼崎白帆荘(委員駐在)			7月20日1900よりレース終了1時間後まで鬼崎白帆荘(委員駐在) 鳥羽真珠湾(委員長駐在)
帆走委員の氏名	竹内(辰)、谷 補助員 吉田鍊平	大橋(善) 広瀬 補助員 吉田鍊平	今 関 補助員 吉田鍊平	高野、渡辺 補助員 吉田鍊平
出 艇 制 限	な し	な し	な し	な し
関係海上保安庁支所	名古屋	名古屋	名古屋	名古屋、鳥羽

(註) 1. レース運営並びに表賞は本要項のほかNORCレース規則に定めるところにより実施される。

2. 鬼崎フリート年度賞は上記4レースの合計(鳥羽レース得点は2倍に計算される。)をもつて決定され総合1位に対して鬼崎フリートカップ、表賞プレート及び表賞旗(赤緑、白地赤桜)を2、3位に対しては表賞旗及び表賞プレートが年度末総会に於いて与えられる。

3. レーティングはLWLをもつてしTCFは $\frac{\sqrt{R+3}}{10}$ とする。クラス別はなしとする。

三河湾ポイントレース実施要項

三河湾フリート

1. 目的 省 略

2. 運 営

年6回おこなうこととし、日時は年度初頭の例会において決める。

運営委員。。。。

3. 得 点

修正1位・参加艇数+1を得点とし、以下順次1点減とす。

年間成績は、上位5回の得点の合計とする。

4. レーティング

$$T C F = \frac{\sqrt{R+3}}{10}$$

R=水線長(フィート)とする。

5. その他

1) 表 彰: 年間総合優勝、2位、3位艇には賞をあたえる。

N O R C 東海支部杯: 年間総合優勝
。。持回り

清 水 杯: 各回修正1位

2) 参加料: 各回、1艇につき300円とする。

1968年度日程

3月10日	5月12日	7月14日
8月11日	9月 8日	11月10日

1968年度 東海支部安全検査実施要領

東海支部安全委員長 坂 井 繁 之

本年度東海支部安全検査を次の要領によつて実施する。なお、新艇に対する検査および再検査についてはその都度指示する。

1 実施日程	3月10日(日)	場所	鬼崎	実施安全委員	坂井、今関
	3月20日(水)	春分の日	鬼崎	"	坂井、今関
	3月24日(日)	"	蒲郡	"	坂井

3月31日(日) 場所 衣浦 実施安全委員 坂井

○時 間 いずれも10,00時より開始 16,00時終了

○集合場所 鬼崎ヨットハーバーは白帆 三谷ヨットハーバーはクラブハウス前、衣浦港は榑原ポートキャプテン宅

- 2 申込み 2月28日までに検査料1,000円をそえて支部事務局まで申込むこと。
- 3 検査内容 NORC安全規則1968付表によりチェックし、その全部について合格の場合は安全検査リスト2部にその旨記載して安全委員長署名の上、1部を艇長に渡し、1部を委員会の控えとする。但しライフラフトを所有しない場合にはその旨付記して、合格に準じた取扱いをする。不合格の場合は簡単な修正により合格の見込みがあり、かつ当日予定終了時間までに検査を終了出来るものと認められる場合の外他日再検査を行なう。再検査については期日その他艇長と打合せの上決定する。この場合規定による再検査料500円を期日決定までに納入のこと。
- 4 立 合 者 フリートキャプテン又はその代理者1名、艇側は艇長又はこれに代りうる者を含め2名以上
- 5 準 備 上記付表の必要品は容易に点検しうるよう準備のこと。テンダーを用意のこと。

第6回『NORC海技教室』(1968年度)要項

主催 (社)日本外洋帆走協会(NORC)海事普及委員会

後援 名古屋海上保安部、「舵」編集部、朝日新聞社

1. 目 的 ヨットマンの航海技術の向上と、海難防止、あわせて小型外洋ヨットの乗組員養成のため。
- 2 対 象 (1) NORC(日本外洋帆走協会)会員
(2) 一般、学生のヨットマン
(3) 小型外洋ヨットに関心をもつ方
- 3 運営方針 比較的初心者を対象とし、ヨットイングの基礎について講習する。
- 4 会 費 500円(NORC会員は無料)

5 日 程

5月19日 10.00-12.00 「気象講話、天気図のつくり方見方Ⅰ」

気象協会 島川甲子三氏

〃 13.00-16.00 「同上 Ⅱ」

〃 17.00-20.00 「外洋ヨット夜話」

NORC理事、ヨットデザイナー、佐世保重工技術部長

渡辺 修治氏

6 定 員 100名

7 申 込 名古屋市中区錦三丁目 東海銀行本店内

日本外洋帆走協会東海支部事務局

あて会費同封お申込下さい。整理の都合上それ以外の方法にては受け付けません。電話にてのお問合せには勝手ながら応じかねます。会場の都合上NORC会員も申込者だけといたします。

8 締 切 5月13日到着分まで、但し定員に達し次第締切ります。

9 会 場 東海銀行主税町クラブ(東区主税町3-1) TEL(951)3206

以 上

Ⅳ 西 内 海 支 部

去る2月3日広島市内、松屋ホテルにて総会を、3月5日役員会を開催し諸議案の審議を終りました。

本43年度の事業計画は下記のとおりです。

1 西内海水域関係各県への組織強化活動

大分、愛媛、山口各県への会員参加を呼掛ける。

2 艇の安全と事故の絶無を期し、安全検査を強化し、これに合格するよう整備せしめる。

3 ヨットハーバー建設促進

4 アマチュア無線局開設準備

ハンデイトーキー整備方奨励

5 レース完全実施

6. 諸規程、内規の整備
- 7 関係官署、関係機関との連絡強化
- 8 会員の技術研修
- 9 普及活動の促進

V 内海支部

内海 原稿が未着のため割愛します。

VI 京都支部

クラス別レースの提案

京都支部長

井 上 正 春

現在のNORCは全国の加盟艇200余、これはヨットの盛な諸外国から見れば、決して多い数ではありません。

数に於いては多くはありませんが年一年と艇も乗り手も進歩している事には間違いありません。

処でレースはどうでしょう。15年前の発足当時と今も変わらずⅡ、Ⅲ級ボートとⅣ、Ⅴ級ボートが入り混つてレースを行つている状態です。15年前は加盟艇も20余艇位のものでしたから1回のレース出場艇も僅かなもので、クラス別にするなんて事は論外で、兎に角オフショアレースを楽しむ事が第一でした。

今日を迎えますと多少事情も変つて来て居る事にお気付だと思います。つい数年前まではⅡ、Ⅲ級ボートも僅かな数でしたが最近之等が少しづつではありますが増加の傾向を見せ益々多く造艇されるだろうと云う気配があり本当に結構な事やと思います。

処で我国クルーザー群の中心勢力は今までもⅣ、Ⅴ級ボートなのですが、Ⅲ級以上とⅣ級以下の艇ではその各々の航洋性能や居住性等も各段の差異があります。

英国のRORCにその基礎を求め、見習つてやつて来たのですから、もう一步、歩を進めてⅢ級以上の艇群レースとⅣ級以下のボートのそれを分離する事を提案します。

特殊な場合を除けば百万言を要さずともその航洋性能の差は誰もが承知している事実です。

余る程各支部を見渡してもⅢ級以上の多くは関東支部に集中され、他の4支部には見るべき数もありません。

関東支部主管のレースを分離されれば、地方にある小数のⅢ級以上のボートはそれの参加の秀に、出場も考えられるでしょう。

レースを分離せずともレーティングを計算しレースには各艇はそれに依つてT C Fを出されるから大小取り混ぜてのレースでも良いではないかとの声も大いにあります。

然しタイムアローワンスと云うものの公平度にも限度があり、同じ様な大きさのボート同志が微少のT C F差で競技の時間差を考える事は良いとして、Ⅱ級とⅤ級とでは大変な差で、何かのひょうしで混合レースでⅤ級艇がⅡ級艇にT C Fの計算の故にコレクトタイムでは勝つ場合があるかも知れません。

これはもうレースではありません。デッドカームで重量艇が走らない海面でⅤ級艇がコレクトタイムで上位に出るとしたらⅤ級艇は実力でなくしてフラフラと流れ乍らフィニシュした結果が修正時間で上位になつただけの話と云つても過言でありますまい。

Ⅴ級はⅤ級同志、Ⅱ、Ⅲ級はⅡ、Ⅲ級同志で競合、尚且つ艇の設計上の差異を修正する意味が第一義として採用されるT C Fであるならホゞ同様の大きさの艇同志でレースを行えば結果は納得されるものであります。

今の変態的混成レースを分離するのに今日では早過ぎると云う事はありません。

関東支部にしても僅か120艇の加盟だからと尻込みしないで、先づ関東支部で範を示して欲しいと希みます。

きつと、うまく楽しいレース展開となりましょう。

そりや上を見たら際限はありません。早い話が有名なファストネットレースの昨年の出場艇は1級31、Ⅱ級a32、Ⅱ級b27、Ⅲ級a24、Ⅲ級b15、それにリタイア艇11艇を含めて実に1440艇。

全く気の遠くなる様な数字です。然し気落ちする事もない筈です。Ⅲ級b程度のボートがドンドン増加すれば我国なりの外洋レースは発展しましょうしその妹分のⅣ、Ⅴ級艇群はその性能を最大限に発揮する様発達増加しましょう。

Ⅲ級艇以上はそれ等に就いて益々多くを学び研究され良艇も建造されましょう。Ⅳ級以下も性能の向上を図られましょう。

レースの分離は各級艇の進歩と増加の為に大いに役立つものと期待しています。

そして最も近い将来にワントンカップやハーフトンカップレースへと進展する礎を作る事になるであらうとも期待します。

◇関東支部三津浜（西伊豆）ランデブー

伊豆箱根鉄道線の夏季恒例による海事思想の普及海辺行事に参加方懇請ありましたので、その趣旨に賛同し下記の日時にNORC関東支部行事として参加することになりました。

詳しいことは追つてお知らせいたしますが、概略下記のとおりです。各位並びに他支部の方々も奮つてご参加下さるよう期待します。

記

1. 期 日 昭和43. 7. 14（日）

1. と ころ 三津浜（西伊豆）水族館

1. 行事計画

10.00 参加艇 三津浜入航

13.00 海事思想の普及を計り参会者を各艇に配乗し、周辺を機帆走する。

18.00 21.00頃迄水族館内の特設会場にてパーティー開催

1. その他 艇の繋航については期間中（7/13-21）ボート要員が当る。入浴は三津浜水族館内にて無料使用可

陸上交通としては三島駅より無料バスが13日夜1回、14日1～2回でる。

旅館（大仁ホテル）宿泊希望者は6月30日迄に日時、人員等を申出のこと。

◇後任常務理事（常勤）の決定

則武常務理事の辞任に伴ないまして、今般運輸省海運局総務課より後任者として高村信氏の推薦があり、過般の総会において会長に委任されました事項でもあり、直ちに関谷会長、大儀見専務理事、飯島常務理事が会見されました結果、来る4月1日付にて就任、常勤としてお迎えすることに決定しました。

新任高村信氏の略歴は下記のとおりです。

記

本籍地 ～ 長野県長野市

現住所 ～ 埼玉県川口市大字芝 6990

TEL 川口 (0482) 52-7284

学歴 (最終) ～ 神戸高等商船学校航海科卒 (昭和9年6月)

職 歴 ～ 甲種船長免状 (才4277号) 取得 (昭和15.11.11)

任海軍少佐 (充員召集) (昭和20.5.1)

海上保安庁勤務 (昭和23.5.1～39.4.1)

(才9管区 (新潟) 海上保安本部長)

船舶振興ビル管理(株)常務取締役 (昭和39.4.16～42.11.20)

以 上

◇ 編輯後記

本協会の発展に伴いまして、才5回通常総会の議も経まして、今後のNOORニュースは全支部よりの寄稿を掲載することになり、又、本部より全会員に発送することになりました。

事務量の増加は意にしません、何から何までの処理なので、寄稿が出揃いませんと刊行日が延びますので、下記の下記の原稿締切日をお忘れなく、寄稿にご協力願います。なお、本年度の刊行予定日は3/15 6/15 9/15 12/15の4回で原稿締切日は2/29 5/31 8/31 11/30となつております。次回は5月31日です。よろしく。

(麻 里 記)

第 一 章 緒 論

§ 1.1 研究の背景と意義

§ 1.2 研究の目的と範囲

§ 1.3 研究の方法とアプローチ

§ 1.4 研究の組織と構成

§ 1.5 研究の貢献と期待

§ 1.6 研究の限界と今後の課題

§ 1.7 研究の参考文献

§ 1.8 研究の結論とまとめ

第 二 章 基礎知識

§ 2.1 基礎理論と概念

§ 2.2 基礎技術と手法

§ 2.3 基礎データと分析

§ 2.4 基礎結果と考察

§ 2.5 基礎結論と展望

§ 2.6 基礎参考文献

付 録